令和４年度〔第２号〕６月30日

北海道南幌高等学校だより

南高不落

校訓　「自主　自律」

北海道南幌高等学校
〒069-0238
南幌町元町３丁目２番１号
TEL:011-378-2248　FAX:011-378-2629
http://www.nanporo.hokkaido-c.ed.jp

■　「目をつけられた」？

校長　矢　橋　佳　之

先日、お世話になっている金沢大学教授の金間大介氏が『先生、どうか皆の前でほめないで下さい―いい子症候群の若者たち―』という本を出されました。先月の北海道新聞で書評が載るなど、世間の注目を集めているようです。

この本は、大学生を指導している日常の体験から、現在の若者に強く働いている同調圧力の状況を解き明かしています。

「目をつけられた」と言うと、良くないことをしてしまった後で、マークされたというときに使うイメージですが、現在の若者の場合、

> Ａ：「昨日の講義、２週連続で先生の問いかけに反応したから、目をつけられたかも」
> Ｂ：「うわー、かわいそう」

というように、良いことをして注目されるときに使っていると指摘しています。なぜ“かわいそう”となるかというと、周囲から浮いて、特別扱いされることが苦痛だという思いが二人にシェアされているからだと思われます。

令和３年に出された中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～のなかで、日本型学校教育について「全ての子供たちに一定水準の教育を保障する平等性の面、全人教育という面などについて諸外国から高く評されている」とする一方で、「学校では、みんなで同じことを、同じように、を過度に要求する面がみられ、学校生活においても同調圧力を感じる子供が増えていったという指摘もある」としています。

学力調査などで我が国の児童・生徒は答えが決まっている設問の正解率は高いものの、記述式になると無回答の比率が高いのだそうです。

その背景には、過度に間違いを恐れる「正解主義」や間違えると恥ずかしいといった「同調圧力」が働いていることがあると言われます。

現在、大学入試で記述式の問題を増やす傾向が強まっているのは、文部科学省による指導もありますが、これからの社会で活躍する人材を育てるためには、「同調圧力」や「正解主義」からの脱却が必要だからなのだと思います。

先だって、いじめを防ぐためクラスメイトを「さん」付けで呼ぶことを指導している小学校の様子が新聞報道されました。知人から「君はこれについてどう思う？」といった連絡があったりもしましたが、世の中でも賛否両論あったように聞いています。

「さん」付けで呼ぶという手段に賛否が分かれたのかもしれませんが、いじめをなくそうと努力する学校の姿勢は賞賛されるものだと思います。しかし、一点だけ私が違和感を覚えたことがあります。

その記事にあった写真で、小学１年生のクラス担任が「さん」と書かれたボードをもっていて、児童たちが元気よく手を挙げている様子が写ったものです。

担任は決して悪意をもってそれを求めているわけではないと思うのですが、「さん」付けで呼ぶという行為の達成状況を全員に挙手を求めるのはなぜなのでしょうか。

小学校の頃から偏屈者だった私は、この「みんな同じ」を強要される雰囲気が苦手でした。また、つい守れなかったりして手を挙げられなかったときに感じる「君はどうしようもなく悪者だ」という弾圧されるかのような雰囲気は若干の恐ろしさを感じていました。

東京都の中学校長を勤められた私の尊敬する教育者のお一人は「『心を一つに』『団結』『絆』一見美しいこれらの言葉は、結果として誰かを仲間はずれにしかねない言葉だと僕は思います。」と述べています。

自分自身の指導の中に意図せず「同調圧力」や「正解主義」の押し付けをしてしまい、その結果、生徒が委縮し、挑戦する気持ちを失わせていることがないか、今一度検証してみたいと思いました。

地域の主産業を学び、地域を探究するために農業体験学習を行っています！

5/17 と 6/15 に城地農産さんと NOAH さんのご指導の下農業体験を行いました。田植えやピュアホワイトの種を蒔く作業を行いましたが、南幌町の主産業がどのような人々の手で支えられているかを学ぶ大変よい機会となっています。今後も何度か収穫までの行程を体験させてもらいます。地域のことを更に知り、地域を支える人に成長したいと思います。ご協力いただいている方々に感謝しております。

進路活動も本格化してきました！

３年生６名。それぞれの未来へ向かっての活動も本格化してきました。6/20 に行われた地元就職応援フェアに３名が参加。他校生とともに各企業の方へ、疑問点や準備しておくべき事などを質問したり、説明を受けたりと有意義な時間を過ごしました。挨拶などの礼儀も身についており、しっかりとした姿勢で取り組むことも出来ました。今後も社会に貢献できる力を更に磨き、進路目標を達成させたいと思います。

私の一冊　Vol.21　教　頭　中　條　尚　志

今年度の「私の一冊」は本校図書室蔵書の中からおすすめの本を紹介します。

『 夢をつかむ　イチローの２６２のメッセージ 』

私たちは幼い頃からたくさんお言葉をかけられ、学び生きてきました。それは、生きている限り尽きることはなく、言葉のシャワーを浴び続けることでしょう。ところで自らの人生の中に「金言」・「座右の銘」なるものはどれくらい持っているでしょうか？日常の中には、自らの人生を大きく変えてくれる言葉がたくさんあり、その出会いは自らの人生を豊かにしてくれるだけではなく、苦境を乗り越える強ささえも与えてくれます。この本はメジャーリーグで長く活躍したレジェンド「イチロー」選手がメディアのインタビューなどで話した言葉が数多く載せられています。いくつか紹介します。

- 勝ちを待っていてはなかなか来ません。つかみに行かないといけません。
- ちいさいことをかさねることが、とんでもないところへ行くただひとつの道
- どんな負け方をしようが、１日に２敗することはありません。
- ムダなことを考えて、ムダなことをしないと伸びません

言葉との出会いは、自らの考え方を変えてくれます。ポジティブに考えることが出来れば、やっていることすべてが成功なのではないでしょうか？成功の数が多ければ、自己肯定感も高まります。人に頼っていても、自らの思うようには人は変えられません。自分はいくらでも変えられます。是非、たくさんの本を読み、たくさん会話し、たくさんの言葉から自分を励まし、先へと導いてくれる「金言」にたくさん出会ってほしいと思います！この本からもヒントはもらえます。一度、読みやすいので読んでみてください！